

土地改良区を元気にする情報紙！



# 水土里ネット パワーアップナビ



## 目次

(写真) 新しい西前原排水機場が完成 (栃木市)

- 地域の話題 ~ 各農業振興事務所から厳選してお届けします ~
- 平成28年度複式簿記促進研修会
- 平成28年度県営土地改良事業の換地業務に係る感謝状贈呈式
- さらなる低コスト化を目指して「スーパー大区画導入実証事業」中間報告

2017/2

Vol. 10

TAKE FREE



# 地域の話題

このコーナーでは、県内に7つある農業振興事務所及び農地整備課の話題を厳選してお届けします。

表紙の写真は、新しく完成した西前原排水機場（栃木市）を渡良瀬遊水地上空より撮影したものです。手前に見えるのは、国土交通省に委託し、改築された排水樋管で、奥に見えるのが新機場、そして新機場の右側に見えるのが現機場です。

西前原排水機場（現機場）は、築造後 39 年が経過し、施設の老朽化が甚だしく、また、排水能力が低下してきたことから、平成 21 年度から県営かんがい排水事業に着手し、このたび**新しい排水機場が完成し**、12 月 28 日に関係者を集めた**施設見学会**を行いました。

今後、調整運転を経て、栃木市へ管理を移管します。**営農環境の改善と地域防災の重要な施設**として、その役割は大いに期待されています。

（下都賀農業振興事務所）



（上） 機場内の様子

（下） 施設見学会の様子



## 鬼怒川右岸土地改良区合併予備調印式

平成 29 年 2 月の合併に向けて、鬼怒川右岸土地改良区と五斗内土地改良区の**合併予備調印式**が 10 月 19 日に宇都宮市内で行われました。

調印式には、鬼怒川右岸土地改良区菊池理事長及び五斗内土地改良区田崎理事長、また立会人として宇都宮市長代理矢古宇経済部長、河内農業振興事務所角田所長が出席しました。

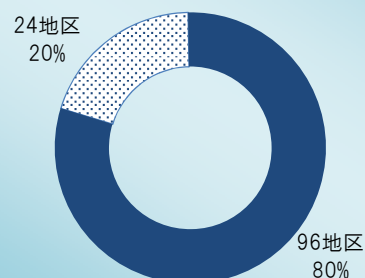


**水系を単位**としたこの合併により、来年度には受益面積 806 ha、組合員数 810 人規模の鬼怒川右岸土地改良区が誕生する予定です。

このことによって、五斗内土地改良区における専任職員不在の状況が解消され、土地改良事業の効果的な実施や適正な維持管理に向けた組織基盤が強化されるとともに、活力ある地域農業や地域社会の貢献に寄与する事業に取り組むことで、鬼怒川右岸地域がさらに発展し、力強く魅力的になるよう地域の牽引役が期待されています。

（河内農業振興事務所）

### 専任職員の雇用状況



■ 専任職員不在 ■ 専任職員雇用

（農地整備課調べ）

国は、専任職員不在の土地改良区を今後 10 年（平成 37 年度まで）で解消する方針を示しています。

本県では、全体の 8 割にあたる 96 土地改良区が専任職員を雇用しています。



**工事着手前の「生き物引っ越し」大作戦  
(県営経営体育成基盤整備事業 田川流域地区)**



11月20日、農地整備事業実施中の田川流域地区（日光市）において、工事予定区域内の水路に生息している生き物を保全するため、**生き物の救出活動**が行われました。

当日は、田川流域地区圃場整備推進委員会、田川流域保全会、施工業者及び行政関係者のほか、地域の子もたちが参加して生き物を捕獲し、環境配慮アドバイザーから捕獲された生き物の説明を受けた後、工事の影響を受けない安定的な水域へ移動させました。



県では、農業者や地域住民の方々とともに引き続き農村地域の環境保全活動に取り組んでまいります。  
(上都賀農業振興事務所)

**市貝町土地改良区・小貝川中部土地改良区  
合併推進協議会設立総会**

市貝町土地改良区と小貝川中部土地改良区の**合併推進協議会設立総会**が11月8日に市貝町内で行われ、会長に市貝町土地改良区藤平理事長、副会長には小貝川中部土地改良区仲山理事長が選任されました。

市貝町土地改良区は組織運営基盤の強化等を目的とし、平成17年1月に市貝町の7土地改良区が合併により設立され、さらには、平成25年に小貝川沿岸土地改良区を吸収合併しました。

一方、小貝川中部土地改良区は圃場整備を目的として設立された土地改良区で、平成29年度に換地処分が完了する予定であり、今後、土地改良施設の維持管理事業を中心に行っていくこととなり、維持管理費の増加が懸念されているところでした。

このため、行政や地域との連携を深めながら、組織運営基盤をより一層強化し、効果的な維持管理事業の推進並びに効率的な運営を図るために、平成29年12月を目標に**行政を単位（1町1土地改良区）**とした合併を目指しています。

(芳賀農業振興事務所)



**◆ミニ情報**

県では、とちぎ土地改良区アクションプランにおいて、次の取組方針の下、関係機関と連携して、土地改良区の統合整備（合併）を進めています。

**(1) 地区面積 500ha 未満の土地改良区の解消**

将来にわたって、運営基盤を維持できる規模と事務局体制を整え、効果的で適正な運営を図ります。

**(2) 重複重畳土地改良区の解消**

重複による組合員の負担軽減を図り、施設管理の一元化など効果的・効率的な管理体制を目指します。

**(3) 市町(旧市町村)又は同一水系単位による土地改良区の実現**

施設の広域かつ一元的管理を図るとともに、地域農業や地域社会への貢献に向けた市町との連携の強化を図ります。

**◆ミニ情報**

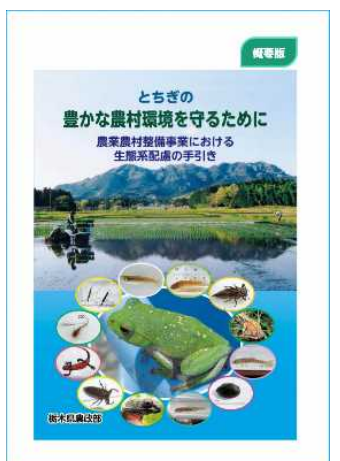
県では、効果的な生態系配慮の取組の一助となるよう

**『農業農村整備事業における生態系配慮の手引き』**を作成しました。

本書は、「調査・計画」「設計・施工」「維持管理」の各段階における取組事例について写真を交えて解説していますので、ぜひ御活用ください。

概要版は、栃木県の公式HPからダウンロードできます。

**『生態系に配慮した手引き』**  
で検索





## 農業・農村整備事業のPR

塩谷南那須農業振興事務所では、「塩谷南那須地方 農業農村整備カレンダー」を平成26年から作成しています。

掲載している写真は、管内の農村風景、農業水利施設や水路周辺への植栽など地域の共同活動の様子です。現在、2017年度版を栃木県の公式HPからダウンロードできます。

『農業農村整備カレンダー』で検索



## 簡易機能診断実務研修会を開催



10月27日、農業水利施設管理者による**簡易機能診断の普及**を図るため、栃木県土地改良事業団体連合会職員を講師に招き、那須管内土地改良区及び市町の担当者28名を対象に現地研修会を開催しました。

本研修は平成24年度から管内の各土地改良区の管理している農業水利施設を会場に実施しており、今回で5回目の開催となります。本研修をとおり**施設管理者自らが施設保全に必要な知識を習得**し、土地改良施設を次世代に引き継げるよう体制強化を図っています。（那須農業振興事務所）

## 三栗谷幹線水路の清掃



水土里ネット三栗谷用水では、かんがい期間（6月から9月までの間）、毎日2回、三栗谷幹線水路のゴミ拾いを実施しています。幹線水路は市街地を流れてくるため、ゴミの流入が多く、**維持管理に大変な労力**を要しています。



足利市内の水土里ネットで構成する足利市土地改良区連絡協議会では、立て看板を作成し、地域の皆さんに、**きれいな水路の保全**を呼びかけています。（安足農業振興事務所）

## 深山カレンダー

那須農業振興事務所那須広域ダム管理支所では、深山ダム・板室ダム周辺の四季折々の景色やダム関連施設の写真を収めた「深山カレンダー」を作成しました。

こちら、現在、栃木県の公式HPからダウンロードできます。

『深山ダム』で検索





## 大宮南小学校で「とちぎ県政出前講座」



10月3日、農地整備課職員が栃木市立大宮南小学校に出向いて、3、4年生を対象に「とちぎ県政出前講座」を実施しました。

今回は、大宮南小学校の周りの田んぼを例に、**ほ場整備の目的、効果等について説明**を行いました。真剣な面持ちで説明に聞き入る児童たちを前にし、職員の説明にも熱が入りました。今後は、より具体的なイメージや効果が伝えられるよう現地説明や動画の活用など工夫をこらしていきたいと考えています。

県職員が直接出向いて説明を行う「とちぎ県政出前講座」は、教育、福祉、産業、くらし、環境のことなど186の講座を設けています。

詳しくは、栃木県の公式HPを御覧ください。

『とちぎ県政出前講座』で検索

## 平成28年度複式簿記促進研修会

11月11日、栃木県土地改良会館において、全国土地改良事業団体連合会主催の**複式簿記促進研修会**が開催され、45土地改良区（連合）から74名が出席しました。

国では、**会計の透明性を高める**ため、平成32年度までに全土地改良区で複式簿記会計の導入又は導入に向けての検討が開始されるよう推進する方針です。本県では、既に単式及び複式簿記会計両方に運用できるシステムを導入した土地改良区もありますが、9割以上の土地改良区は複式簿記会計の導入に消極的です。

県では、導入を目指している土地改良区に対し、重点的に支援し、他の土地改良区への波及を促すとともに、農水省や土地改良事業団体連合会と連携しながら、円滑な移行ができるよう引き続き研修会や講習会を開催していきます。



## 平成28年度

## 県営土地改良事業の換地業務に係る感謝状贈呈式

平成28年11月17日、県公館において、県営土地改良事業の換地業務の円滑な遂行に寄与した次の土地改良区に対し、知事感謝状が贈呈されました。

- ・二宮土地改良区（小貝川西Ⅱ期地区）
- ・深津土地改良区（深津地区）
- ・南河内土地改良区（武名瀬川地区）
- ・湯津上土地改良区（二輪地区）

感謝状を受けた土地改良区を代表して二宮土地改良区の日賀野定一理事長が、「今後は、県営土地改良事業で生まれ変わった農地を次世代に喜んでつないでいけるよう、活性化させることが私たちの使命と考えております。」と述べました。



感謝状贈呈式の様子



二宮土地改良区 日賀野定一理事長

さらなる低コスト化を目指して

# 「スーパー大区画導入実証事業」中間報告



県では、国際化に対応できる低コストな水田農業経営の実現に向けて、3 ha 規模のスーパー大区画等の有効性を実証する事業に取り組んでいます。

コンバイン  
(6条刈)

2.6ha のスーパー大区画  
周りのほ場と比べるとその大きさは圧倒的です！

### ◆生産者の声

水回りや代かきが心配であったが、順調に作業が進んだ。特に代かきは作業効率が上がったと実感できた。

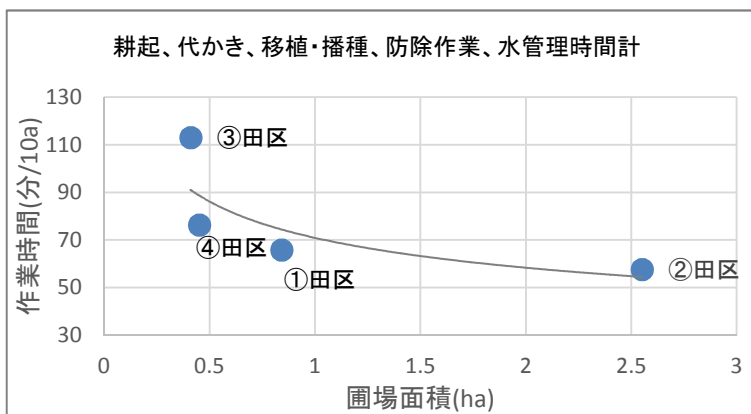


### スーパー大区画(②田区)と比較対象ほ場

### ほ場条件等

田区番号	面積 (ha)	長辺×短辺 (m)	作付状況	自動止水栓の有無
①田区	0.85	120×70	移植 5/27	
②田区	2.60	150×170	移植 5/30	
③田区	0.39	88×47	湛水直播 5/23	
④田区	0.46	78×58	移植 5/26	○

## 調査結果 (中間報告)



◆耕起、代かき、移植・播種、防除及び水管理の10a当たりの作業時間の合計(8月末時点)は、②田区が最も短時間となった。

◆大区画化による機械作業時間の節減に加え、水管理箇所(取水口)数が減ることから、水管理作業時間の節減が見込まれる。

詳しくは、栃木県の公式HPを御覧ください。

『[スーパー大区画](#)』で検索

### ～編集後記～

2.6haのスーパー大区画は、4区画に分かれていた水田の畦畔を撤去して1つにしたそうです。今後は、ICT(情報通信技術)を活用した水管理等を検討しているようです。どのような取組なのか興味津々です。

県では、今後とも分かりやすい紙面づくりを心掛けて参りますので、御感想や御意見等がありましたら、下記までお寄せください。